

# コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2022年12月2日

Nature:

中国はゼロコロナ政策を終了できるか？ 死亡者を減らせるか？

## 【松崎雑感】

14億人の中国が集団免疫を作る方向で、ウイズコロナ対策に移行する場合、あらたに10億人規模の新規感染者が発生することになる。新型コロナウイルスにとっては「金城湯池」である。好きなように変異ウイルスを作ることができる、人間界の医療崩壊が起きようとかまわない、と言うのがウイルスの立場である。さて、人間界はどう対応するか？ 効果の高いワクチンを、億人単位のPCR検査をすぐに実行できた国力を活用して接種する事、抗ウイルス薬を感染した人々に例外なく投与するとかの対策が考えられている様である。地球全体のことを考えるなら、中国の「ウイズコロナ」政策の円滑な実施のために、世界が協力する事が必要と思う。(今日は、だ・である体で書きました)

## 中国はゼロコロナ政策を終了できるか？死亡者を減らせるか？

Mallapaty S. **Can China end its 'zero COVID' policy - and minimize COVID deaths?** [published online ahead of print, 2022 Nov 30]. **Nature**. 2022;10.1038/d41586-022-04235-w. doi:10.1038/d41586-022-04235-w

ゼロコロナ政策を終わらせるためには、高齢者ワクチン接種率向上、抗ウイルス薬の備蓄、医療機能の拡充が必要である

ゼロコロナ政策に対する人々の不同意が珍しく広く報道されたことをきっかけに、中国政府は厳しいゼロコロナ政策を終了する方向に動いているようだ。

厳格なロックダウン、大規模検査、感染者の施設隔離、旅行制限がこの国の経済にマイナスの影響を与えている。この数日で、いくつかの都市の行動制限が緩和された。

中国の副首相スン・チュンラン氏は、最近の報告書で、コロナ対策を人々が受け入れやすい形に変更するとの意向を示した。しかし、ゼロコロナ政策を終わらせるためには多くの困難を解決しなければならない。

ゼロコロナ政策のために、中国国民の感染率は極めて低い状態が維持されている。

しかし、ワクチン免疫が減衰しているが、ブースター接種を広く行える状況にない。厳格なゼロコロナ政策終了後に、感染と死亡、重症化が増えることをどう防ぐかが課題である。

11月29日には71000人の感染者が発生した。これはパンデミック中最多である。中山大学の感染疫学専門家ルー・ジアハイ氏は、この激増がオミクロン株BF7によるものと考えている。

モデル研究によれば、中国が厳しい行動制限を解除したなら、1億6千万人から2億8千万人がオミクロン株に感染し、ワクチン未接種の高齢者を中心に130万～210万人が死亡すると推定されている。

この3月のワクチン接種率を基に推計すると、アウトブレイクの極期には、現在の15倍のICU病床が必要となるという試算も公表されている。

ワクチン接種率はそのときよりも高くなっているが、入院がさばききれない状況は回避できないだろうと、香港大学の疫学専門家ベン・カウリング氏は語った。「極めて多くの人々が重症化して死亡するだろう」

しかし、ゼロコロナからウイズコロナに移行した場合に重症化と死亡を最小限にとどめる対策はあると専門家は考えている。中国の公衆保健システムを研究しているエール大学の経済学者シー・チェン氏は、なによりも高齢者に急いでブースター接種を行なう事が必要だと語った。

## ワクチン接種の促進

中国国民が接種できるワクチンは、中国製不活化ワクチン（シノバック）である。WHOは60才以上の人々にこのワクチンを3回接種するよう勧奨している。2回投与では十分な免疫ができないためである。60才以上に3回ワクチン接種が完了したなら、死亡者を61%減らすことができると報告されている（Nature Medicine）。

しかし、現在までにブースター接種を受けた割合は、60才以上の69%、80才以上の40%に留まっている。「ゼロコロナ対策として行動制限が優先されたため、ワクチン接種の重要性が後景に押しやられたためだ」とカウリング氏は語った。

今週、中国政府は、2回目接種と3回目接種の間隔を6か月から3か月に短縮して高齢の人々への接種を加速すると決定した。

ブースター接種を受けた人々では、検査陰性の証明がなくとも公共施設にでいりできるというようなインセンティブも与えた方が良いだろうとチェン氏は考えている。

9月に、中国は鼻腔スプレーによるウイルスベクターワクチンを承認した。これは天津の企業が開発したものである。大都市住民はこのワクチンにアクセスできる。専門家はこのワクチンの臨床トライアルの最終結果を待ち望んでいる。

彼らが期待しているのは、重症化予防だけでなく、二次感染防止効果がどれくらいあるかである。「中国政府は、二次感染防止力の高いワクチンを大規模に接種して、大きな感染の波を起こすことなくゼロコロナからウイズコロナに移行しなければならないと考えている」とカウリング氏は述べた。

中国の企業は、オミクロン特異的mRNAワクチンも開発中である。実用化されたなら、従来の国産ワクチンよりも高い効果が期待できるだろう。

リュウ氏は、もう一つの重要な対策として抗ウイルス薬の備蓄と医療機能（病院スタッフとベッド）の拡大があると語った。Nature Medicineの論文では、感染者すべてにパクスロビドを投与したなら、死亡者を89%減らすことができると推計されている。

## 検疫の緩和

現在まで、中国では、感染者と濃厚接触者は、検疫施設に収容されることになっている。今後は、無症状者、軽症者は、自宅隔離になるだろうとチェン氏は語った。「これによって、重症の人々に対するケアを充実改善することができる」

さらに、迅速抗原検査が陰性である濃厚接触者は休業の必要をなくするという緩和措置も必要だろうとカウリング氏は語る。

これによりヘルスケアワーカーの休業者を大きく減らせるだろう。

チェン氏は、中国政府が国民に発信していた新型コロナに関するメッセージが人々をパニック、恐怖、スティグマをもたらしていた点を反省して、新たなメッセージングを工夫する必要があるだろうと語った。

チェン氏は「ゼロコロナ政策を続けると、中国は持たない」と語った。